

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900272		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字仲田101		
自己評価作成日	令和4年11月15日	評価結果市町村受理日	令和5年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームは平成26年3月に開所し、同敷地内に同法人のデイサービス、住宅型有料老人ホームがある。季節に応じて、お花見、紅葉ドライブへ出かけ季節を感じていただいている。高齢化・重度化における医療依存度が高くなっているが、医療機関と連携しホームにて長期にわたり生活していただけるよう、職員体制を整えている。定期訪問診療により、定期的に処方・相談・指導をいただいている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>一関駅東口側から車で数分のところにある2ユニット(平屋)の事業所は、同じ法人が経営するデイサービスと住宅型有料老人ホームが敷地内にあり、医療機関やスーパー、飲食店に恵まれた閑静な住宅地の中にある。社是の「信頼、親身、進取」等は、朝夕の申し送り時間に全職員が唱和し職員に浸透しており、日常の介護に活かされている。経鼻経管栄養や留置カテーテル管理等の医療依存度の高い重度の利用者が多く、入浴時は複数の職員が機械浴槽を利用して支援している。また、ミキサー食等の食事形態や介助に時間をかけるなどの手厚い支援は、利用者や家族にとって心強い対応となっている。ここ数年のコロナ禍により、沢山の地域住民が参加していたサマーフェスタや、防災協力員を交えた避難訓練、日常的なお茶のみ客の来所を始め休止している事業のコロナ禍沈静後の再開とともに、看取りや重度化支援のための着実な体制整備が期待される事業所である。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定・社是を玄関、事務所に掲示いつでも確認できるようにしている。毎朝・夕唱和し意識統一を図っている。また実践に向け、年度目標を定め取り組んでいる。	法人の定める運営理念、サービス理念に加え、事業所独自に、前年度の振り返りによる年度目標とその達成方法を話し合いの中で決めている。社是の「信頼、親身、進取」等は、朝夕の申し送り時間に両ユニット職員全員で唱和し、浸透しており、日常の様々な介護で活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出・面会制限の中、施設周辺の散歩で行き交う、近隣、保育園児との挨拶にて交流している。	自治会に加入し市の広報も届いている。コロナ禍以前は、市内中学校の福祉体験の受入れ、敷地内事業所合同で開催するサマーフェスティバルでの地域住民との交流、自治会事業の花植えや草取り時の交流、近隣に住む元教員からの書の寄贈、隣接デイサービスでの歌・踊りボランティア来所時の鑑賞会等と様々な交流があった。また気軽にお茶飲みに来所される住民もあったが、コロナ禍で現在は休止している。	コロナ禍収束後の地域との交流再開に向けた準備を始めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談時などに認知症について理解していただけよう支援方法など説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということで来所は控えていただいているが書面により情報提供をおこない報告している。また、電話にてご意見・ご要望等を伺い、サービス向上に努力している。	コロナ禍で集合形式での開催は控えている。隔月での文書報告としているため、文書だけでなく、行事写真を多く添付するなどの工夫をしている。委員は地区の民生委員や行政区長、行政、家族で構成され、利用者の参加や警察、消防などの参加はお願いしていない。	開催形式を報告に留まらず質疑や意見を求める「書面会議」とすることやメンバーの拡大などを検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のため市からご意見を頂戴しているが、介護保険や感染症等について会議や研修に職員が参加するようにしている。	要介護認定の更新手続きは、殆どのご家族から依頼があり、市役所に出向いて代行している。現下の運営推進会議委員に広域行政組合の介護保険課職員をお願いし、情報等をいただいている。市へのコロナ関係の補助金申請手続や事故報告等は、法人本部が対応している。介護相談員は昨年までは年2回来所していたが、今年度は無く、生活保護の担当者へは所定の書類を提出している。	

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。夜間は防犯のため20時以降施錠している。外部警備を開始する。職員研修にて身体拘束について学習している。身体拘束が必要な場合においても代替方法などを検討しケアを実施している。	身体拘束廃止委員会は、隔月で運営推進会議事務局職員が委員となり開催している。また、職員の研修は、職員会議時にビデオ学習を主に年2、3回実施している。身体拘束を実施している利用者は無く、日常業務の中では、利用者への「ちょっと待ってね」と対応する場面が多いことを課題としている。気になる声かけがあれば、職員同士で注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修にて学び理解を深めている。各職員がケア方法について相談し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修・内部研修にて学習の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に説明させていただき、入所に必要なもの、入所後の生活について説明し入所についての不安軽減に努めている。契約時に契約書・重要事項説明を行い、質問があれば説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人が毎月発行する瓦版をご家族に発送し事業所での生活を伝えている。生活の様子を写真にしてお渡ししている。コロナ禍であり窓越し面会時意見をうかがっている。	殆どのご家族は、概ね月に1回程度、紙おむつ等の日用品購入用の小口現金を持参し来所している。面会制限が継続している中、来所時に利用者の写真を差し上げながら日常生活の様子をお伝えし、ご家族から喜ばれている。運営に関しての意見は殆んどなく、食事内容や健康面の要望を話されることが多い。毎月ご家族に送付している「いこい瓦版(A3カラー)」には、系列事業所の行事内容や健康アドバイス等も網羅されている。	

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各勤務帯の申し送り時や職員会議にて意見・要望等について確認している。法人事業所単位の意見・提案等については毎月開催される、事業所代表参加の会議にて協議されている。	管理者、リーダーとスタッフのコミュニケーションは良好で、普段から意見・提言が寄せられている。利用者の重度化に伴い、リクライニング車椅子を2台追加購入したり、安全な入浴支援のため脱衣所に手すりを設置し、職員からは介助が楽になったとの声が聞かれる。法人本部の対応も良く備品購入も円滑に行われ、移動介助用のスライディングボードも購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員が自己評価し、管理者が評価した評価、表を本部事業所に提出し、代表者への報告としている。資格取得の支援を行い、資格手当などの待遇を見直している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の受験資格に該当する職員については積極的に受験するよう支援している。外部研修についても、希望に沿いながら参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流する機会ができない現状。今後コロナが終息し次第、交流できればと考えている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所事前調査にてご本人・ご家族の要望・不安等を傾聴確認説明を行い、不安軽減に努める。また気軽に相談して頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所事前調査にてご本人・ご家族の要望・不安等を傾聴確認説明を行い、不安軽減に努める。また気軽に相談して頂けるような雰囲気づくりに努めている。		

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前事前調査や、担当ケアマネから得た情報、ご本人、ご家族からの要望を踏まえた支援の方法を検討している。また職員間で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることに着目し可能な限り家事など役割分担し関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても窓越し面会にて直接的ではないが絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり馴染みの場所に外出したり、馴染みの人と面会できていない現状。コロナが落ち着き次第、支援していきたい。	以前は兄弟から電話連絡などがあったが、話がかみ合わなくなり疎遠となっている。また、年末年始やお盆の一時帰宅は、重度化等で遠のく状況にある。ご家族の殆どが、月に1回程度の頻度で小口現金を持参した際、窓越しで面会している。面会制限の中、事業所に毎月訪問診療で訪れる訪問診療医や、隔月で全員が利用する訪問理容の床屋さんが馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各居室に引きこもることなく、声がけを行い、共同スペースにて過ごしていただいている。またレク活動を通じて他者と交流できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設の情報提供 相談などを必要に応じて行っている。		

事業所名：高齢者グループ いこいの友（Aユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前事前調査にて要望・意向の把握を行っている。困難な場合は表情などを読み取り、ご本人の気持ちによりそよう努力している。	両ユニットとも、概ね3分の2の方が重度者で、また体調や日内変動で確認が可能な時と難しい場合があり、利用者全体の様子を確認しながら支援している。嫌な事などは首を横にしたり、顔をしかめたり、手を払いのけたりの動作で確認している。また、少しでもわかる方には、選択肢を示して選んでもらうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前調査の情報だけではなく、ご家族の面会時にも随時、情報の収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴をもとに、1日の過ごし方について、ご本人のリズムに合わせて対応できるように努力している。また毎日の申し送りにて日々の過ごし方、心身状態の情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で状態の把握に努め、ご本人・ご家族や職員からの要望や提案を都度話していただいている。現状を考慮しながら介護計画に反映している。	入居後最初の介護計画は、2人体制で事前調査訪問に伺い、3～6か月の計画を作成している。見直し時期に利用者や家族の意向を確認すれば、ご家族からは前と同じ内容でと希望されることが多くなっていく。A棟B棟の介護職員はそれぞれ担当外の利用者も理解しており、職員会議時や介護支援専門員との随時の協議でも、日常生活の様子や必要なサービスの意見を述べている。また、「食事、水分補給、排泄、入浴、洗面・口腔、基本動作、医療」の7項目によるチェック表を活用して状態を確認し、それぞれのプランは全職員が情報共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や職員からの情報提供を受け介護計画の見直しをおこなっている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにとどまらず、必要に応じて柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーにて買い物をしたり、近くのカフェの店主さんをお招きしカフェメニューを提供していただき楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続して受診されている方もいるが、通院が困難である方に関しては協力医療機関に訪問診療にて診察していただいている。	入居後も、かかりつけ医での治療を継続し、受診時は家族の対応をお願いしている。旧一関市内よりも遠隔の周辺町村から入居した利用者が多く、家族も高齢化してきている。そのため市内の複数の病院に対応していただき、訪問診療を毎月1回利用している利用者が多くなってきている。また、皮膚疾患では皮膚科医による訪問診療を利用し、平均3、4名が受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤で配置している。必要に応じ個別で訪問看護を利用している利用者様もいらっしゃる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行っている。入院中も医療相談員との情報交換を行い状況を把握している。退院時には医療機関と連携を行いスムーズに退院できるよう協力していただいている。また必要な情報提供をいただいている。		

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期について説明しており医療的ケアが必要になった場合は看護師を中心にかかりつけ医、ご家族と連携をとる。また、必要であれば訪問診療、訪問看護を検討。ホームでの暮らしが困難になった場合はご家族・ご本人の意向を確認しながら他施設の情報提供提供、申し込みなどの説明を行う。	これまでに、B棟で1名の看取りの実績がある。車椅子利用重度者2名が、リクライニング車椅子利用に切替えている。経鼻経管栄養や尿の留置カテーテル管理等、医療依存度の高い利用者には、事業所看護師が対応しており、日常の留意点を介護職員に伝えている。2ユニットで、夜勤者2名が勤務しているが、緊急対応マニュアルでの対応に加え、終末期には主治医をはじめ、ご家族の協力も得た支援体制を想定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍でありも密になる状況での実施は困難であり、実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。1回は夜間を想定した避難訓練をおこなっている。火災など非常事態が発生した場合は警備会社に通報される。コロナ禍であり、本年度は地域の方々の避難訓練はおこなっていない。	ハザードマップ上、水害と土砂災害が心配され、同じ敷地内のデイサービス、有料老人ホームとも平屋で、数年前の大雨の際、同じ法人の平泉町の事業所に避難したことがある。その際、避難経路途中の道路が冠水で迂回した経験もある。区長さんからは、以前、事業所隣接の側溝から水が溢れ出したとの情報も寄せられている。駆けつけ協力をいただける防災協力員(地域住民)が2名いるが、コロナ禍で訓練協力が途絶えている。オール電化設備の停電に備え、今年度中に自家発電装置を設置する予定としている。	散歩や外出支援と合わせた薄暮等のミニ避難訓練の実施、防災協力員の確認連絡など、業務に支障のない範囲で確実に少しずつ工夫しながら災害対策を進めてられることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として声がけは「さん」つけとし敬意を表す。職員会議にて研修会を開催し常に敬う心を忘れず尊厳やプライバシーを損なわない介護をしていくようにしている。	利用者一人一人を尊重することを全職員が理解してケアにあたっている。食事の時間は、早めに食べたい利用者や、遅めに起床し遅めの朝食となる利用者それぞれのリズムを尊重している。両ユニットで男性職員が4名、入居者は全員が女性である。入浴や排泄介助の際、異性介助拒否者はいないが、相性等のことがあれば、臨機応変に対応している。	

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気楽に気持ちを表出できるような雰囲気づくりや関係作りにつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人との会話のなかで、その日の気分や意向を聞き取り意向にあった対応しご自分のペースにて過ごしていただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんにきていただいている。ご本人の気分に合わせて洋服を選んでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人営の配食サービスをとり入れている。利用者は食器等のかたづけ、テーブルふきなどお手伝いをいただいている。	試行期間を経て配食サービスを導入し、ご飯とみそ汁は事業所で作っている。誕生日や行事時には事前に連絡をとり相応しい食事を依頼している。手作りおやつや簡単な食材準備等に、以前は利用者も喜んで手をかけていたが、今は動ける方に下膳やテーブル拭きを手伝ってもらうだけになった。ミキサー食やムース食の利用者も多く、飲み込みに配慮した食材に限定されることが多いが、季節の行事では、季節感を意識した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はひとりひとり観察している。食事摂取量で不足している場合には代替になるもの(栄養補助食品)を検討し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が見守り・必要時介助しながら歯磨き・うがいをいただいている。職員が口腔内を確認し、磨き残しがある場合は磨き直し、必要な方には舌磨きもいただいている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行っており、個人個人の排泄時間を把握している。汚染時には羞恥心の配慮をこころがけ交換をおこなっている。	介護度4から5の利用者が多く、リクライニング車椅子利用者が2名で、A棟で5名、B棟も5名の利用者が紙おむつにパットを併用している。またA棟で3名、B棟で2名の利用者が尿の留置カテーテルを挿入している。排泄チェック表を活用し、水分不足や色等にも注意している。朝方に熟睡する利用者が多い中、夜間は、睡眠を優先した対応としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には毎日乳製品を提供し、腸内環境を整えるようにしている。レク活動で、体操等で体を動かす活動をしたり、便秘が続いている方に関しては主治医に相談させていただき整腸剤など処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	入浴日は週2回となっているが、通院や体調不良の方には曜日を変更して対応している。また入浴拒否する方には無理に誘わず、時間をおきながらタイミングをみて入浴していただいている。	B棟の自立歩行が可能な利用者1名を除き、利用者は両ユニットとも、A棟にある特殊浴槽を利用し、2人から3人のスタッフの介助により午前中に入浴している。また、声かけで気乗りしない利用者には、午後に再度の入浴を促している。浴槽に入ると、何とも言えない気持ち良さそうな表情をしたり、出身地に伝わる唄を口ずさむ利用者もいる。定期的な入浴支援で、入居当初は面倒がった利用者も、入浴が生活の中の楽しみに変化している。季節に応じて菖蒲湯にするなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は身体状況に合わせて休んで休んでいただいている。居室内の室温、照明等ひとりひとりに合わせた環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時個々の処方を確認している。変更があった場合は、各勤務帯の申し送り時と申し送りノートを活用し副作用・用法を全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日余暇活動を行っており、他者との交流を通じ楽しみや気分転換となるよう支援している。		

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外気浴や季節のドライブにてストレス解消している。ドライブは感染防止に配慮している。	殆どの利用者が身体的に重度化しており、日常的な散歩や外気浴に出かける利用者は殆どなく、日当たりの良い長い廊下での散歩、日向ぼっこを楽しむことが多くなっている。感染対策として、窓を開けての換気を励行しており、暑さ、寒さを肌で感じることは出来ている。外出可能な利用者は、系列デイサービスの車両を利用し、桜、新緑、あじさい、紅葉等の名所へドライブに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理ができない方については、ホームの個別小口管理帳によって管理しておりドライブなどで嗜好品を購入したりネットにて購入し個別に支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族・知人への連絡対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事面では季節の食材をとり入れ、レク活動では季節にあった壁飾りを皆さんで制作している。	両ユニットの中央にホールがあり、床暖房、エアコン、加湿器、空気清浄機が完備されている。重度者のためにB棟ではベッドが2台準備されている。なかなか外出が出来ない利用者のために、四季毎に季節感を感じられる手作りの壁飾りが掲示されている。クリスマス前には、壁にクリスマスツリーを意識した装飾品が飾られている。コロナ禍の感染対策として、A棟B棟への利用者の行き来を遮断した時期もあったが、調査時点では開放しているとのことであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にくつろげるようにしている。共有スペースのテーブルの座席に関しては気の合う方との配置に配慮している。自分の好きな場所でくつろげるような環境作りをこころがけている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループ いこいの友 (Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所時に自宅から馴染みのものをもってき ただいている。ご家族の写真や余暇活動に制作 した作品を居室に飾ったりして過ごされている。	居室には、ベッド、洗面台、エアコン、縦長の大き なクローゼットが備えつけられ家族写真や作品 等が飾られている。入居間もない頃には、配偶者 の写真飾り眺めていても、時間の経過とともに 「知らない人の写真」となってしまう、位牌と一緒 にクローゼットにしまった方も居るとしている。両 ユニットとも、入居者は日中の殆どをホールで過 ごし、静かな環境の居室は睡眠の部屋として利 用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくしたつくりになっており、廊下・トイレ・ 浴室等てすりを設置している。本人が自由に歩き 居室やトイレがわかるよう目印をつけている。		